

表 4

表 1

構成・演出 熊谷 和徳
 音楽 青柳 拓次
 映像編集 高平 大輔
 舞台監督 川原 卓也
 舞台・照明・音響スタッフ (有)石金音響
 シアターアテンダント 十全美装株式会社
 アートディレクター 門嶋 隆裕
 宣伝美術 (株)D-NET
 広報・宣伝 福岡 美奈子
 票券管理 森田 梨佐
 制作 向澤 郁子
 藤田 充博
 制作補助 森田 真衣
 公演協力 オーバード・ホール舞台技術課
 企画・製作 (公財)富山市民文化事業団
 Kaz Tap Studio

Tap into The Light
タップ・イントゥ・ザ・ライト
Vision of LIFE
 AUBADE HALL Presents



2018年5月26日|土| 15:00開演 富山市民プラザ アンサンブルホール

AUBADE HALL Presents *Tap into The Light* Vision of **LIFE**

www.aubade.or.jp

【主催】(公財)富山市民文化事業団、富山市 【共催】北日本新聞社、チューリップテレビ

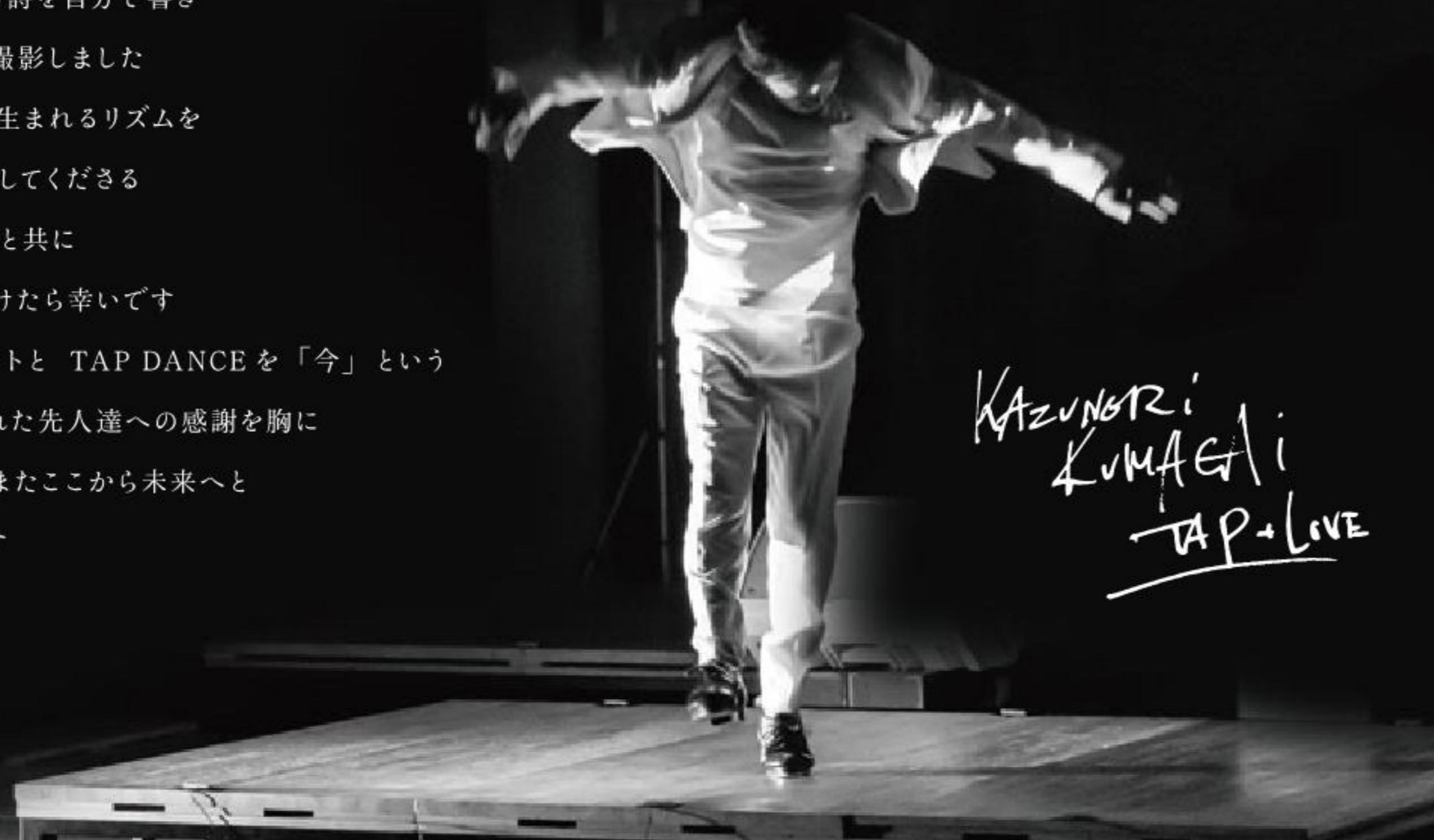
僕にとっての人生のビジョンとは何だろう
 タップを踊ってきて 25 年という時間が経ちました
 NY で生活を日々葛藤しながら
 なんとかここまでリズムを踏みながらやり続けることができました
 ここまでの道のりと さらにこれからのことを考える時
 まだまだゴールにはほど遠く途方にくれて立ち止まることもあります
 しかしふと思うことは
 今というこの瞬間
 一日一日そして一瞬一瞬の出来事は
 今の自分にしか経験することができない
 かけがえのない時間であるということです
 だから特別な何かを求めていくよりも
 今のこの瞬間の日常を大切に
 出会った人を大切に
 日々をもっと大切にしていかなければと心からおもいます
 今回ショウを創るにあたり詩を自分で書き
 そして映像も全て自分で撮影しました
 僕自身の日常の景色から生まれるリズムを
 青柳拓次さんと今回出演して下さる
 素晴らしい仲間達の音楽と共に
 みなさんに感じていただけたら幸いです
 TAP DANCE というアートと TAP DANCE を「今」という
 この瞬間へとつないでくれた先人達への感謝を胸に
 足元の大地を踏みしめ またここから未来へと
 進んでいきたいと思えます

熊谷 和徳



熊谷 和徳
Kazunori Kumagai

15歳でタップをはじめ19歳で渡米。タップの神様、グレゴリー・ハインズと出会い絶賛される。世界最大規模のタップの祭典、ニューヨーク・タップ・フェス(タップ・シティ)に10年連続出演。「米ダンスマガジン」において【世界で観るべきダンサー25人】に選出される。2014年には“NATIONAL TAP DANCE DAY”において、世界の優れたタップダンサーへと贈られる【フローバート賞】を、2016年にはニューヨークにおけるダンス/パフォーマンス分野の賞である“ベッシー・アワード”で【最優秀パフォーマー賞】を、どちらもアジア人タップダンサーとして初めて受賞した。現在はニューヨークを拠点に世界各国にて活動中。富山では一昨年、昨年の富山能楽堂公演に続き、3年連続でのライブとなる。



KAZUNORI
KUMAGAI
TAP+LOVE

Piano / Guitar



青柳 拓次 Takuji Aoyagi

1990年、TVのオーディション番組を経て、Little Creaturesでデビュー。ソロ名義を含め国内外で数々のアルバムをリリース。映画や舞台の音楽を作曲し、詩人、写真家としても作品を発表。近年では、絵本「かがり火」、UA「Japo」(プロデュース)、Little Creatures「未知のアルバム」を発表し、それぞれ全国ツアーを実施。ドイツ・FRAMELESSフェスティバルに出演。写真と言葉の展示「TO KI NA WA」を実施。野村友里演出・舞台「食の鼓動」にて音楽を担当。今年、KAMA AINA + Hochzeitskapelle (ドイツ)のアルバムがリリース予定。また、声とギターによる新たなソロユニット“Takuji”をスタートさせ、現在撮影中(田中トシノリ監督)のドキュメント映画「サークルボイス(仮)」と呼応しながら、活動を本格化している。 <http://www.takujiayagi.com>

Percussion



カラモ・シソコ Karamo CISSOKHO

1979年セネガル共和国ダカールにてマリ帝国時代から代々続くGriot(世襲制の伝承音楽家)の家庭に生まれる。6歳でダカールの音楽学校に入り、兄弟たち10人とコラ(西アフリカ発祥のリユート型弦楽器)のグループを結成。9歳の時にフィンランドのヘルシンキにて初の海外公演を行う。1994年、セネガルのゴレ島に移住し「African Djembe」に加入。コラとジェンベを演奏。1997年、「Ocean Percussion Company of Goree Island」を結成。パリ、ローマ、アムステルダムなどヨーロッパ各地で演奏する。その後、レグエバンド「Selebe Yone」を結成。アルバム「Dunia」をリリースし、ダカールやセネガル各地のナイトクラブで演奏する。2005年より拠点をアメリカに移し、2007年に「Koumbemba」を結成。2008年にアルバム「A Tribute To Bakary」をリリース。2017年には「Tribute to Mame Fallow Fall」をリリースし、現在は日本を拠点に活動している。

Strings

藤田 千穂 【ヴァイオリン】



東京都立芸術高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科、同大学研究科、ウィーン市立音楽院修了。YBP国際音楽コンクール技能賞の他、受賞歴多数。スイスの国際音楽祭「ティチノ・ムジカ」にてソロリサイタル開催。現在、室内楽、オーケストラ等で演奏活動を行う他、子供のためのコンサートに力を注いでいる。ユニット「エンジェリズム」メンバー。桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」富山教室講師。

新井 紗央理 【ヴァイオリン】



東京音楽大学ヴァイオリン専攻卒業。桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。これまでにヴァイオリンを小澤眞琴、進藤義武、中村静香の各氏に、室内楽を藤原浜雄、堀了介、横山俊朗、店村眞積、水島愛子の各氏に師事。現在、SOSEIミュージックアカデミーヴァイオリン講師。新井ヴァイオリン・チェロ教室主宰。後進への指導のかたわら、県内外においてソロ・室内楽・オーケストラの演奏活動を積極的に行っている。

高田 愛子 【ヴィオラ】



愛知県立芸術大学を経て、桐朋学園大学院大学(修士課程)修了。大学院在学中に桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。これまでヴァイオリンを故大沢和夫、小林健次、進藤義武、藤原浜雄の各氏に師事。2000年より富山市、山形市、仙台市の音楽教室等を経て、2015年より石川県金沢市にてヴァイオリン教室を開講。その他に富山県立呉羽高等学校管弦楽部、石川県ジュニアオーケストラにてトレーナー、北国新聞文化センター講師を務める。

井上 貴信 【チェロ】



東京音楽大学を経て、同研究科を修了。桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。2012年、2014年には、ドイツで行われた国際音楽祭“CIMF in Germany”に全額奨学金を受け参加。期間中、多数の演奏会に出演し、いずれも好評を得る。ソロや室内楽、オーケストラ、またアーティストのサポート等、幅広い分野での演奏活動を行う傍ら、富山市の新井ヴァイオリン・チェロ教室にて後進の指導にあたってている。今までに、松波恵子、堀了介、田中雅弘の各氏に師事。